

基調講演「地域との連携を踏まえた学校評価のあり方について」

九州大学大学院人間環境学研究院教授 八尾坂 修

1. 学校評価の目的の再確認

- (1) 学校としての組織的・継続的な改善
- (2) 学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり
- (3) 設置者等による支援や条件整備

2. 自己評価の推進方策

- (1) RV・PDCA サイクルの視点
- (2) ミドルリーダーの役割・育成、チーム力ある組織
- (3) 児童・生徒からのアンケート実施上の留意点
 - 授業評価(アンケート)ー目的・主体・対象・時期(機会)・方法等
- (4) 保護者からのアンケート実施上の留意点

3. 学校関係者評価の有効活用

(1) コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の役割

(2) 学校評議員制度の役割

(3) 学校支援地域本部などの役割

(4) 学校関係者評価推進上のストラテジー

① 昭和 26 年当時の文部省試案の“協同評価の発想”

- 独善性から客観性

- 訪問委員会として自己評価を支援する協力者

- 建設的な態度でのポジティブな評価観

② 校長の支援的・変革的リーダーシップ

- 教職員の微妙なメンタリティへの配慮とモラル高揚

③ 学校評価のプラン段階からの参加

- 活動を通して学校(教育活動)への理解者

4. 第三者評価の活用

(1) 学校評価ガイドライン[平成 22 年改訂]のパターン

- ① 学校関係者評価と第三者評価の両方を併せ持つ評価
- ② (例) 中学校区単位での教職員による相互評価
- ③ 評価チームによる評価

(2) 九州大学教育学部(学校評価支援室)における第三者評価の試みから考える

①「評価チーム型」—旧志摩町(糸島市)のケース、大宰府市のケース

- 小4校、中1校(域内全校)対象(旧志摩町)
- 小・中各1校(文科省の第三者評価試行校となっていない他の学校)対象

(大宰府市)

②「外部評価型」—宮崎県五ヶ瀬町のケース

(3) 第三者評価の効果的運用

① 学校・地域の実情をふまえた学校評価システムの開発

- 予算面から「外部評価型」の展開予測
- 大学・教育委員会・地域有識者の「連携チーム」による第三者評価
- 学校関係者、第三者の位置づけの必要

② 評価者の専門性に裏づけられた多面的評価能力向上のための研修

5. 教育委員会の支援的役割

(1)「自治体の教育ビジョン」の提示と助言

- 全体としての方向性と重要な課題提示
- PDCA マネジメントサイクルにおけるプラス思考の助言

(2) 学校評価における集計作業などの事務負担軽減

- IT や外部事業者、補助者の活用

(3) 学校評価と教育委員会の施策の連動

- 関連施策と連携(不登校、特別支援、特色ある学校づくり、授業づくり、少人数教育、家庭学習の習慣化など)

- 学校裁量予算(確かな学力、開かれた学校づくり、豊かな心育成等)
- 優れた事例の情報発信、学校評価のガイド、事例集の作成、日頃からのコミ

ュニケーション・チャンネル(学校と教委)

- 学校関係者評価実施の工夫(接続校、近隣校の参加による相互助言・高まり)
- 「中学校区」単位での学校評価活動(中学校区の共通評価項目、共通評価

指標の設定、幼・保・小・中全体での学校関係者評価)

(参考) 八尾坂 修『学校改革の課題とリーダーの挑戦』ぎょうせい、2008年。(特に第3章)

同 『学校改善マネジメントと教師の力量形成』第一法規、2004年。(特に第2章、第10章)